

「伝統産業」とそれを支える「人」が織りなす魅力ある街

■市の特徴

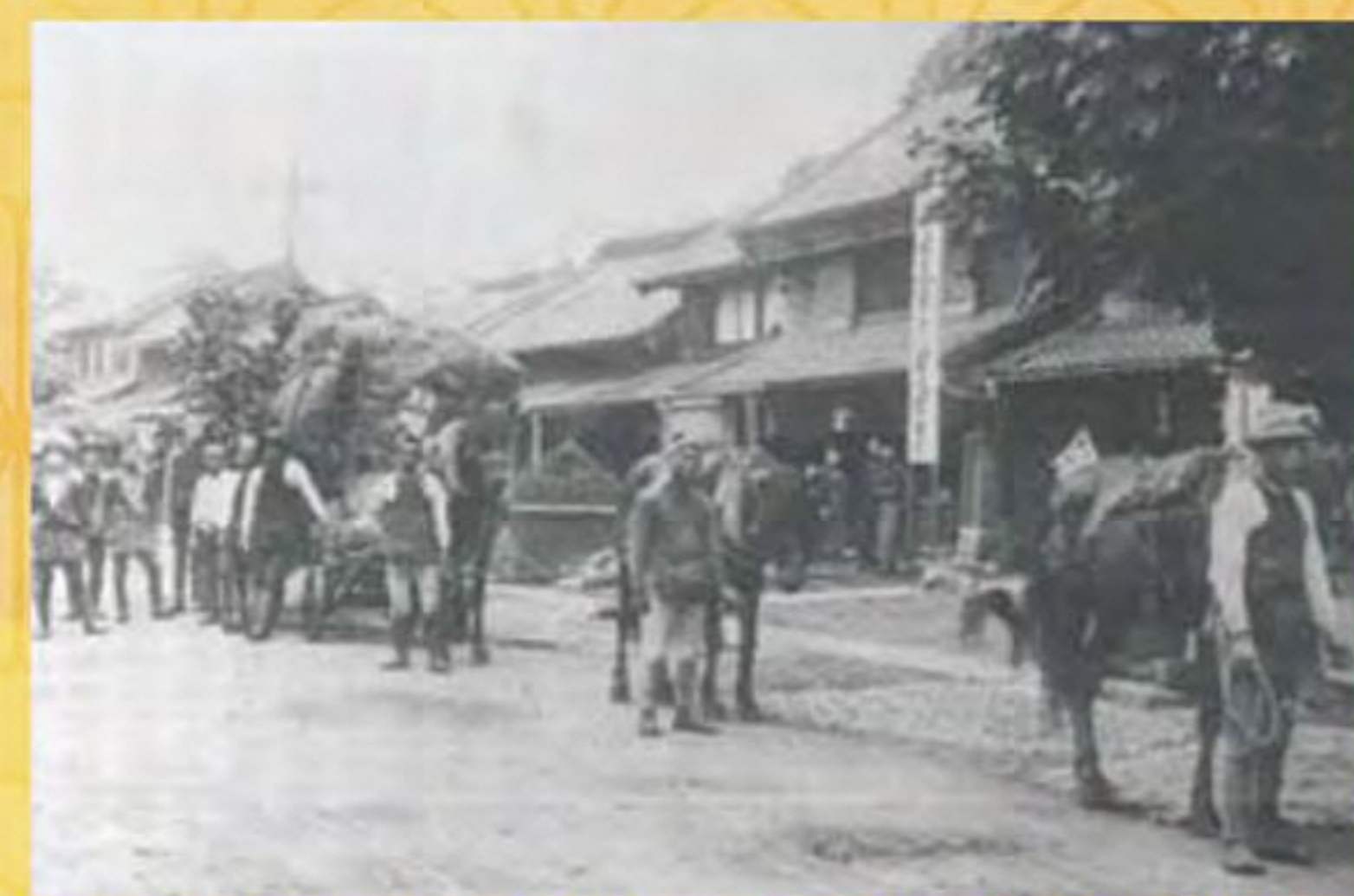
川口市は、埼玉県の南端に位置し、荒川を隔てて首都・東京に接しており、江戸時代初期から「鋳物」や「植木」などの産業により発展を遂げました。陸路では日光御成道が、水路では荒川が江戸(東京)と結び、モノと人の行き来が盛んに行われました。現在では、東京へのアクセスの良さを活かしベッドタウンとして発展しつつ、「固有の伝統あるものづくりのまち」として活力あるまちづくり・人づくりを目指しています。

埼玉県川口市
市制施行：1933年4月1日
人口：605,065人（世帯数：297,704世帯）
面積：61.95平方キロメートル
※2022年8月1日現在



■植木の歴史

全国一の植木・苗木の里といわれており、約400年の歴史があります。「植木のまち」としての歴史は、1657年の江戸の大火災(明暦の大火)の後に、吉田権之丞が苗木や切り花を売りに出したところから始まったとされています。恵まれた地形・地質等や販売・流通の地理的な優位性、生産技術が普及していったことなどにより、現在に至るまで植木生産・流通の全国的な拠点となっています。



明治神宮造営に際して献木を運搬する様子

■市の代表的な花き・農産物

地下水の流れがよく土壌の赤土は樹木の栽培に適しており、また日本列島のほぼ中央に位置しているため、寒い地域から暖かい地域まで多種類の植物・農産物を育てることができます。



鉄砲百合(市の花)



サザンカ(市の木)



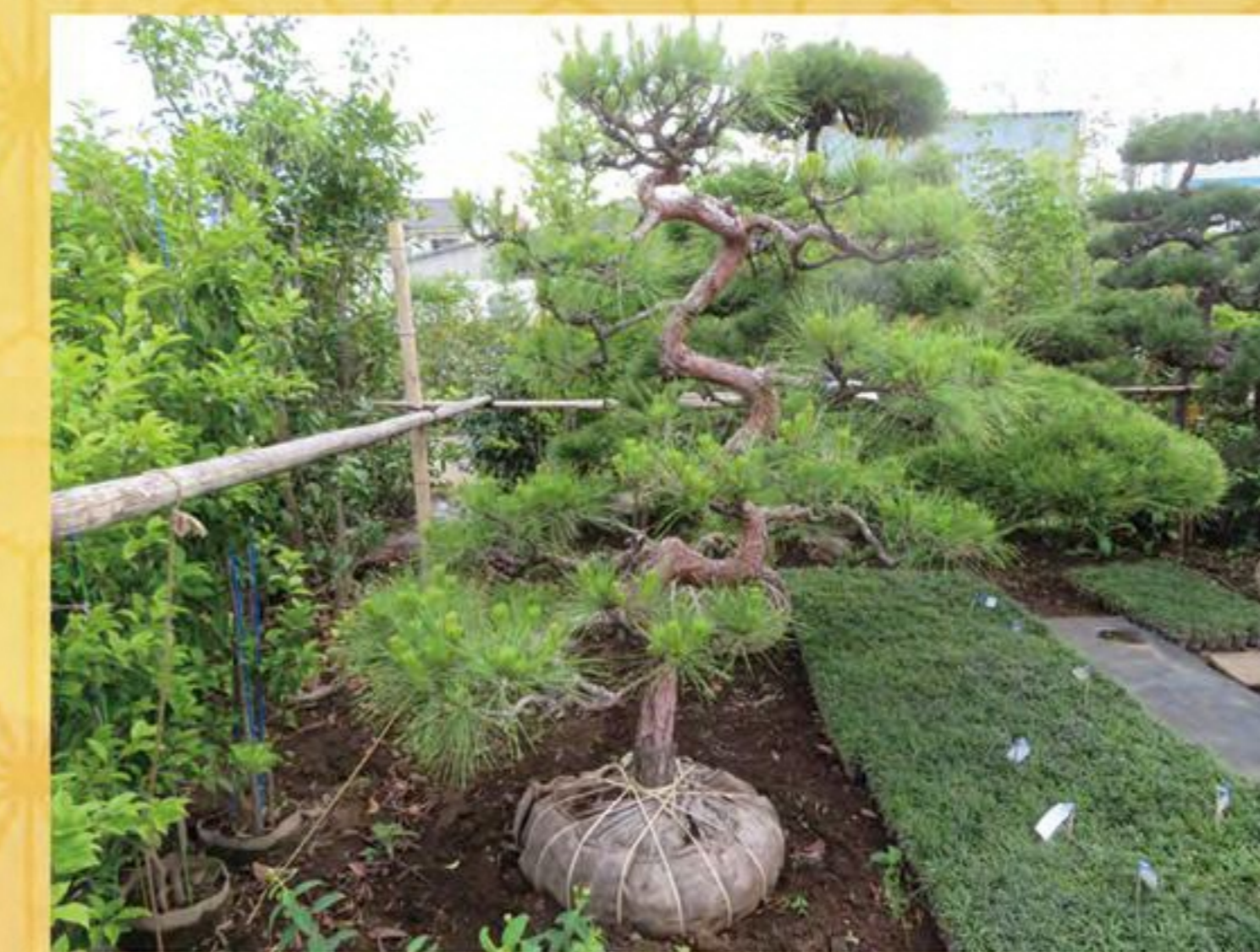
ほうふう



木の芽(サンショウ)

■伝統技術

長年の歴史で培われた伝統の技術は、全国的にも信用が高く、「安行の植木」というブランドで流通されました。現在も安行流という仕立て「曲げもの」の技術、「ふかし」という花の開花を早める技術、「根回し・根巻き」という植え替えや運搬の際の技術等は、農業後継者に受け継がれています。特に「挫き仕立て(曲げもの)」が残っているのは日本中でも川口だけだと言われています。



根巻き



赤山の枝物(枝折り)



挫き仕立て(曲げもの)

■国際園芸博覧会(フロリアード)への出展

園芸先進国であるオランダ王国で、10年に一度開催される世界最大の花の祭典に、川口の花きのPR及び販路拡大を目的として、1982年の初出展以来、2022年までに5回連続で出展しています。各種コンテストで金賞を受賞するなど、川口の緑化技術は海外でも高く評価されています。



フロリアード2012でゴヨウマツが金賞を受賞



フロリアード2012会場